

14. 日韓交流について

日本数学会と大韓数学会との間には、1992年に締結された交換会員についての協定がありますが、本年5月大韓数学会の会長であるYong Seung CHO氏から日本数学会理事長宛てに日韓交流の活発化についての働きかけがあり、現在双方で検討を行っています。

この第一弾として、北海道大学で開かれた秋季総合分科会に、大韓数学会から

CHO, Yong Seung (趙容承),

President of the Korean Mathematical Society (KMS)

Professor of Mathematics,
Ewha Women's University

KIM, Byung Hak (金柄學),

Secretary-General of the KMS
Professor of Mathematics, Kyunghee University

KIM, Jong Su (金鐘秀),

Secretary of Finance of the KMS
Professor of Mathematics,
Sogang University

の3方が訪問され、また返礼として森田と満淵俊樹理事が、本年10月15日、16日に開かれる大韓数学会の年会に出席することになりました。

訪問する機会にこちらの意見を伝え、双方で満足の行く協定を結びたいと考えています。

日本と韓国の間には歴史的にいろいろな問題がありましたが、地理的に非常に近く、中国をも含めて、数学者間の交流を活発化することが必要だと考えています。

(理事長 森田康夫 記)



評議員会で挨拶されるCHO会長

札幌の年会では、韓国側訪問団は評議員会とレセプションに出席され CHO会長が挨拶された他、新しい日韓交流協定の案を提示されました。これを受け、日本数学会の理事会ではこの案を検討し、10月に韓国を